

## 平成29年度 麻生区市民提案型協働事業 報告書

- 第2期超高齢団地の支え合い立ち上げ事業 P 1  
(白山1丁目・ちょっと支援隊)
  
- 伝承遊びで街おこし～和風つくりと凧揚げ大会～ P 7  
(あさお和風の会)
  
- 未来につなぐ資源循環 P 11  
(かわさきかえるプロジェクト)
  
- 地域の茶の間・ゆりっぴい広場で多世代交流 P 17  
(ゆりっぴい広場)

平成30年3月1日

## 事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	白山1丁目・ちょっと支援隊（略称、支援隊）
-----	-----------------------

## 1 事業結果

事業名	第2期・超高齢団地の“支え合い”立ち上げ事業	
実施時期	平成29年5月1日 ～ 平成30年3月10日	
事業費	予算額	57万円
	決算額	43万128円
実施結果	<p>（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など）</p> <p>①さつき街区集会所での講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月18日 服部真治・医療経済研究機構研究員（出席者41人）</li> <li>・7月15日 飯島勝矢・東京大学高齢社会総合研機構教授（47人）</li> <li>・10月8日 西田新一・調布市医師（51人）</li> <li>・2月10日 藤原佳典・東京都健康長寿医療センター研究所部長（45人）</li> </ul> <p>②先進地視察（参加＝麻生区職員を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月13日 看護小規模多機能施設「ゆらりん」（9人）</li> <li>・9月22日 大田区高齢者見守りネットワーク「みま～も」（10人）</li> <li>・1月13日 東京立川市・都営大山団地（12人）</li> </ul> <p>③“支え合い”仕組構築、活動の開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備 シボルマークの作成、支え合い利用券の作成、支援フローの整理、ボランティア募集チラシ作成／全戸配布</li> <li>・ボランティア組織発足 支援する人（ボランティア）37人登録</li> <li>・ボランティア会議 第1回（5/24）24人参加、第2回（7/28）21人参加 生活ニーズの情報共有、活動内容の共有、「ポプラささえあい」との情報交換</li> <li>・広報活動 活動周知の為にチラシをさつき街区全戸配布（3回）</li> </ul> <p>④居場所“さつき会”発足、活動開始 住民相互の親睦を図る活動の定例化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さつき会」オープン（5/27 お茶会）26人</li> <li>・食事会 6/25：25人、7/23：25人、9/16：19人、1/27（21人）</li> <li>・「蕎麦打ち」10/28：21人、2/24：20人、</li> </ul> <p>⑤支援隊企画行事 11/18「簡単なフレイルチェックと運動機能テスト」（22人）</p> <p>⑥新春白山寄席 1/20 柳亭市若；柳亭市馬の門下生で前座務め（36人）</p>	

<p>事業総括 (自己評価)</p>	<p>(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画に盛り込んだことは、全て達成できた。</li>   <li>・提案名として掲げた「超高齢団地の“支え合い”立ち上げ事業」に挑戦し、第2期で、ボランティア37名から成る“支え合い”の仕組みを構築し運用を開始した。 横の繋がりの薄い団地で、何かの時に助けを求めることのできる組織ができたことは、住民に安心感を与えることになり、その意義は大きい。 ボランティアの結束を深めるため、ボランティア会議を2回開催し、さらに、活動をPRするため、シンボルマークを決め、支援内容、支援対応フローを明確にしたチラシを計3度に渡って全戸配布した。“支え合い”活動の認知度は上がりつつある。</li>   <li>・市の補助を受けての講演会は、身近な所で、その分野の専門家から詳しい話を聞けてありがたいと評価する声が多数寄せられた。各種講演会を通じて、健康寿命を延ばすために個人で努力することが大切だという気付きを与える機会にもなった。 支援隊にとっても、各種講演会を通じて、“支え合い”活動にとって何が重要であるかを学ぶことができ、メンバー間に認識の共有化ができた。</li>   <li>・すでに住民の支え合いを実現している首都圏の先進事例を視察する事は、具体的な活動内容の充実化を図る上で有効であった。 加えて、参加メンバーのモチベーションを向上させる作用があった。 視察によって習得したこと、例えば、住民が参加できるクラブ活動の多様化を図ること、広報誌の発行など、早速、次年度の活動に取り入れることになった。</li>   <li>・前年度に引き続き様々なイベントを開催し、住民相互の親睦を図る行事を積極的に展開した。 「さつき会」の名のもとに、食事会や蕎麦打ちなどの行事を、原則月1程度開催し住民相互の交流を活発化させた。定期的に参加している方は、参加者同士で互いに声を掛け合う姿があり、また、テーマを変えることで新規参加者も増加している。</li>   <li>・高齢者に健康に対する関心を高めてもらい、横のつながりを活発化させることを目的とし、住民の元気度をチェックする運動機能テストを実施した。皆で楽しく健康度を把握できたと好評を博した。元気度チェックを通して、フレイル予防の考えの1つである地域参加の大切さを伝えた。</li> </ul>
------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"><li>・“支え合い”活動の特筆すべき事例として、80歳代のご高齢夫婦からの「病院への付き添い」依頼に対応した。理事会で購入予定の車椅子がまだ来ていなかったため、買い物車でマンション玄関口へお連れし、タクシーで病院に行き、病院でも色々な診断のための移動支援を行った。（1月4日）</li> <li>・講演活動の全体を収録したDVDは、さつき街区の住民向けに貸し出し出来るようにしたほか、麻生区役所地域みまもり支援センターを通じて、広く区民が視聴できるようにした。</li> <li>・さつき街区（第1）全体として“支え合い”を組織的に推進するため、管理組合に働きかけた。平成29年11月、管理組合が行った高齢者世帯調査の結果を共有し、今後連携して高齢者対策に取り組む必要があることを確認した。</li></ul>
--	--

## 2 決算内訳

### (1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
委託料	570,000円	
合計	570,000円	

### (2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	235,691円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師謝礼 @30,000円×4名= 120,000円</li> <li>・視察謝礼 (大山団地・みまーも・ホーム岡上) 15,691円</li> <li>・活動記録ビデオ制作謝礼 (4回) 100,000円</li> </ul>
旅費・交通費	45,640円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地域視察 (大山団地・みまーも・ホーム岡上) 43,800円</li> <li>・フレイルチェック見学 1,840円</li> </ul>
消耗品費	57,124円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さつき会」活動備品購入 47,620円</li> <li>・ボランティア用名札ストラップ他 5,832円</li> <li>・ポリ袋 (講演会靴入れ用)・講師飲料他 3,672円</li> </ul>
印刷製本費	50,269円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コピー代 (講演会・さつき会の資料及びチラシ) <ul style="list-style-type: none"> <li>【資料—参加者、チラシは全戸配布】 46,943円</li> </ul> </li> <li>・コピー代「支え合い」アンケート、保存版 (全戸配布) 3,326円</li> </ul>
通信運搬費	3,820円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気度チェック」検査キット、検査用紙 送料 3,820円</li> </ul>
使用料・賃借料	0円	
保険料	0円	
その他	37,584円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回「元気度チェック」 <ul style="list-style-type: none"> <li>自立体力全国検定料、検定用具レンタル料 34,884円</li> </ul> </li> <li>・書籍代「地域ネットワークづくり」 2,700円</li> </ul>
合計	430,128円	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙 (様式自由) に記載してください。

平成29年度麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	( 白山1丁目・ちょっと支援隊 )
事業名	( 高齢団地の“支え合い”立ち上げ事業 )

視点	項目	判断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	①. 十分達成できた 2. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	“支え合い”の仕組みを構築し、運用を開始した。講演会・イベント等や先進地域の視察など予定の全てを実施。また、さつき会を通して住民同士のつながりを深めた。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	①. 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	講演会についてアンケート調査は行われなかったが、身近な所で、その分野の専門家から詳しい話を聞いてありがたいと評価する声が多数寄せられた。
	事業の経費は適正でしたか	①. 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	予算額の範囲内で賄うことができた。
	実施過程で問題は発生しましたか	①. 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	予定した講演会、視察は問題なく、予定通り実施できた。講演会も街区の集会所で支障なく開催できた。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	①. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	単独では活動資金が得られず事業を進められなかった。地域みまもり支援センターの応援が得られた。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	①. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	地域みまもり支援センターには、ほとんどの行事に参加してもらえた。反省会や打合せにも積極的に加わってもらい、質の高い活動を実施できた。
	協定書などの内容が、対等な関係になりましたか	①. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	団体と担当課で密に情報共有しながら進められた。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	①. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	年度当初に協定書の内容を共有し、行政と団体の役割分担を確認し、適切に実施した。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	①. 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	今後の事業をグリーンタウン全体に広げることを意識、開かれた運営を心がけ、多くの参加者が来訪した。

今後の課題

- ・支え合い活動を気軽に利用できるように住民同士が顔の見える関係を作る必要がある。
- ・居場所の多様化として、誰もが参加できる各種サークル活動を立ち上げる事。そのために必要な備品等の充実化を図る。
- ・“支え合い”の認知度を上げ、活動を軌道にのせるために「支援隊ボランティア通信」を発行する。
- ・管理組合との連携を強める。

平成30年2月27日

## 事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	あさお和風の会
-----	---------

### 1 事業結果

事業名	伝承遊びで街おこし～和風つくりと和風揚げ大会～						
実施時期	平成29年05月01日～平成30年03月08日						
事業費	予算額	217,000円					
	決算額	159,240円					
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など）						
	1、指導者フォローアップ研修会実施 9月24日（日）やまゆり会議室 18名参加						
	2、和風つくり指導員養成講座開催 12月3日（日）区役所会議室 参加者6名 指導者10名参加						
	3、和風つくり体験会と和風揚げ大会開催						
		月日	会場	参加者	保護者	指導者	合計
		11月25日	寺子屋くりきだい（栗木台小学校）	22	8	10	40
	1月14日	千代ヶ丘こども文化センター	17	10	12	39	
	2月17日	寺子屋わかたけ（真福寺小学校）	35	20	12	67	
	合計		74	38	34	146	
	4、区民会議フォーラムへの参加 2月3日（土）区役所会議室 指導者4名 活動の広報のため、チラシの配布・和風の展示、および、ミニ和風の手作り体験会を開催した。						



<p>事業総括 (自己評価)</p>	<p>(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、和風づくり指導員の養成講座は 15 名程度の参加を予定していたが、6 名の参加に留まった。ただ、参加した 6 名全員が指導員としての登録をした。</li> <li>2、和風づくり体験会と風揚げ大会は毎回 20 名程度の定員で開催していたが、3 回目の寺子屋わかたけ（真福寺小学校）風づくり体験では 35 名の参加申し込みがあり、全員を受け入れ実施した。人気に答えるために指導員の増員が急務である。</li> <li>3、和風づくり体験会と風揚げ大会については寺子屋、こども文化センターなどの新しいチャンネルを開拓できた。</li> <li>4、事業全体としてはおおむね当初の成果を得られたと思うが、寺子屋、こ文など既存の団体へのアプローチは出来たが、麻生区内全域を対象にした風づくり体験会が出来なかった。来年度への課題としたい。</li> <li>5、事業を通して、子ども達はものづくりの楽しさを体験でき、指導者は経験と能力を地域の中で活かすことができた。</li> <li>6、参加した保護者にとっても、ご近所同士の交流きっかけにもなり、世代間交流と地域での顔の見える関係づくりに寄与することができた。</li> </ol>
------------------------	--

## 2 決算内訳

### (1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
委託料	217,000	
合 計	217,000	

### (2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	0	
旅費・交通費	34,000	指導員交通費 (延べ34名)
消耗品費	92,950	和紙、竹ヒゴ、タコ糸、ボンド、袋、エプロン代他
印刷製本費	14,930	チラシ印刷、インク代、コピー代他
通信運搬費	7,360	はがき、切手、振込手数料他
使用料・ 賃借料	6,000	会議室使用料
保険料	4,000	子ども、指導員対象のイベント保険料
その他	0	
合 計	159,240	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙(様式自由)に記載してください。

平成29年度麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(あさお和風の会)
事業名	(伝承遊びで街おこし～和風づくり体験会と凧揚げ大会～)

視点	項目	判断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ② ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	和風づくり体験会は手づくりの楽しさは十分体験させることは出来た。凧揚げは風が吹かないで残念だった。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	① 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	凧づくり体験会を3回実施、生徒数約80名の参加が見られ手づくりの楽しさは体験できたと思われる。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された ② 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	委託料を約50,000円少ない支出であったが、これは凧づくりに講師を依頼せず、会員が担当した。
	実施過程で問題は発生しましたか	1. 問題は発生しなかった ② 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	凧づくり体験会を開催する団体へのアプローチが遅れたが、実施団体の確保は出来た。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	① 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	広報、メディアへの取次、及び工具、資材の保管を行政で負担した。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	1. 十分に行った ②. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	必要な協議は行われた。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	① 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	特に問題はなかった。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	① 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	団体における自主的な運営が行われ、役割分担は明確であった。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	1. 十分確保できた ②. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	問題はなかった。
今後の課題	平成30年度は事業実施から3年目であり、平成31年度以降は独自の運営が必要になるが、特に経費の負担について賛助会員(スポンサー)の募集、あるいは参加生徒からの会費の徴収など必要な資金の確保が大きな課題である。		

平成30年 2月 28日

## 事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	かわさきかえるプロジェクト
-----	---------------

## 1 事業結果

事業名	未来につなぐ資源循環	
実施時期	平成29年 5月 1日 ～ 平成30年 3月 9日	
事業費	予算額	542,700円
	決算額	488,735円
実施結果	<p>（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など）</p> <p>事業実施のためのチーム会議は、毎月1回を基本に5月～3月に10回（1回は3/2予定）開催し、教材作成についてはチームを作って事業をすすめた。</p> <p>1. 菜の花プロジェクトによる台所から温暖化ストップとCO<sub>2</sub>削減の広報</p> <p>① 菜の花プロジェクト活動報告会開催（1回）：8月30日（水）に作付に関わっている団体、ボランティア、明治大学など、関係者24名が集い、麻生市民館料理室で開催した。</p> <p>② 親子企画の麻生区産なたね油を使った料理教室兼資源循環セミナーの開催（3回）：親子企画「地産地消の料理教室」＜夏＞7月31日（月）33名参加、＜秋＞10月21日（土）20名参加、＜冬＞1月28日（日）32名参加、麻生市民館料理室で開催した。</p> <p>③ 環境フォーラムの開催：「明治大学黒川農場と菜の花プロジェクト」2月10日（土）、麻生区役所第3会議室で、黒川農場藤原俊六郎氏、甲斐貴光氏を講師に招き開催、35名参加。</p> <p>2. 地域内資源循環への理解を深めるための環境教育プログラム・教材を作成</p> <p>① 教材チームを作り、金程小学校の鈴木教諭のご協力を得て、小学校環境教育プログラムと冊子教材「菜の花からリサイクルを考えよう」、出前授業用パワーポイントを作成した。</p>	

	<p>② 2016 年秋に種まきを行った金程小学校のご協力を得て、6月 27 日(火)に 5 年生を対象に実験授業を行った。</p> <p>③ 8月 31 日(木)に小学校校長会において、小学校での環境プログラムの紹介を行い、小学校での授業実施を目指した。</p> <p>④ 10月 12 日(木)に金程小学校において、4 年生を対象に菜種の種まきを含む授業を行った。</p> <p>⑤ 次年度からの小学校プログラムの活用をめざし、川崎市地球温暖化防止推進センターが発行する市内小学校向けの「環境出前授業プログラム一覧」に登録した。</p> <p>⑥ 冊子教材は親子企画でも活用することとし、料理企画で配布した。</p> <p>3. 立て看板による、菜の花プロジェクトの環境まちづくり推進情報の発信 6月に菜の花プロジェクト圃場用看板 20 枚を作成し、10月に一部圃場に設置した。</p> <p>4. 菜の花&amp;廃食油回収ニュースレターの発行</p> <p>① ニュースレターの発行 (3 回→4 回) 7月、9月、12月にこれまでの協力者、参加者を対象に送付した。企画課と協議を行い、2018年 2月に 1 回追加して送付した。</p> <p>② 町内回覧の実施 (4 回) 6月準備 7月回覧、8月準備 9月回覧、11月準備 12月回覧、12月準備 1月回覧の 4 回実施した。</p>
<p>事業総括 (自己評価)</p>	<p>(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など)</p> <p>1. 菜の花プロジェクトによる台所から温暖化ストップと CO<sub>2</sub> 削減の広報</p> <p>① ボランティアを始め関係者が集まり開催できたことで、より共感が高まり、料理教室やフォーラム、イベント手伝いへの参加増えている。</p> <p>② 親子企画「地産地消の料理教室」は秋の開催は定員を満たすことができなかったが、夏と冬は定員を超えての参加があった。リピーターもあり、回収ポイント登録もあったことから、環境保全への理解が高まったことが分かった。次年度の開催への要望も高かった。</p> <p>③ 環境フォーラムでは地域の研究機関であり菜の花プロジェクトで連携する明治大学黒川農場での最新取組みについて学ぶとともに、環境保全という切り口で菜の花プロジェクトと共通の目的を理解でき、ボランティア登録が 4 名あった。</p> <p>2. 地域内資源循環への理解を深めるための環境教育プログラム・教材を作成</p>

- ① 前年度までの「まちを知る」授業での廃食油を回収してリサイクルせっけんとして再利用する「せっけんの家」としての協力から、菜の花プロジェクトでの連携を作ることができ、実験授業のご協力を得ることができた。農作業も含め、菜の花の成長から、収穫・利用・リサイクルの循環を伝えることができた。
  - ② 作成した教材とパワーポイントは親子料理教室でも環境保全について理解を深める資料として活用できた。出前授業以外での活用を視野に入れ、企画課との協議により、教材の増刷を行った。
  - ③ 教材には 2016 年度作成の麻生区版菜の花プロジェクトによる地域資源循環を紹介するリーフレットを挟み込んで活用した。企画課との協議により、2017 年度版のリーフレットを増刷し、活用につなげる。
  - ④ 出前授業は金程小学校で 2 回実施できたが、その他の小学校については 8 月校長会でプログラム紹介を行い、一部小学校に直接連絡もしたが、実施につながっていない。次年度に向けて、企画課から環境局に調整してもらい、全小学校配布の環境出前講座一覧に掲載されることとなり、今後の展開に期待したい。
3. 立て看板による、菜の花プロジェクトの環境まちづくり推進情報の発信
- 看板を見て菜の花プロジェクトに関心を持つためのフォーラム参加があった。今年度は圃場拡大には至っていないが、今後小さな面積でも播種を行うことで看板による地域資源循環アピールを継続していきたい。
4. 菜の花&廃食油回収ニュースレターの発行
- ① ニュースレターの発行（3 回→4 回）  
 ニュースレターには最新の活動情報を掲載し、廃食油回収協力者やイベント・企画参加者のうち希望者に送付、毎回約 380 通を送付した。また、イベントや企画で参加者に配布し、活動の状況をお知らせした。協働事業の終了に伴い、今後ニュースレターはボランティア、回収ポイント、特に送付を希望する方等に制限して配布することとし、企画課と協議のうえ、臨時号として 2 月に配布終了をお知らせするニュースレターを発行した。
  - ② 町内回覧の実施（4 回）  
 町内回覧には企画のお知らせのほか、活動状況を報告し、かわさきかえるプロジェクトで進めている資源循環の取組を広く伝えることができた。
  - ③ 企画参加のリピーターが増え、共感の高まりとともにボランティアや回収ポイントが拡大した。廃食油回収に関する問い合わせもあった。

2 決算内訳

見込み

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
委託料	542,700	
合 計	542,700	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	40,000	フォーラム講師謝礼金 @20,000×2
旅費・交通費	51,904	スタッフ交通費 51,904
消耗品費	129,088	菜の花プロジェクト看板プレート 20 枚 40,000 印刷用紙・封筒文具等 51,305 料理教室・報告会食材費 28,104 プランター・培養土・鉢底石 5,479 フォーラム試食 4,200
印刷製本費	84,988	教材・パンフレット 55,748 町内回覧・ニュースレター・資料等印刷費 29,240
通信運搬費	116,363	町内回覧・ニュースレター発送費 102,255 振込料 108 運搬費 14,000
使用料・ 賃借料	21,812	チーム会議 1,000 料理教室・報告会 (4 回) 20,812
保険料	4,480	料理実習参加者保険料
その他	40,100	HP 管理料 30,000 区民まつり・しんゆりマルシェ出展料 10,100
合 計	488,735	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

平成29年度麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	( かわさきかえるプロジェクト )
事業名	( 未来につなぐ資源循環 )

視点	項目	判断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ②. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	菜の花プロジェクトによる台所から地球温暖化ストップの広報として実施した活動報告会と親子対象の企画はおおぜいの参加があり、活動の意義を伝えることができた。小学校教育プログラムは菜の花プロジェクト活動の集大成として作成できたが、出前授業としての実施は広がらなかった。次年度への課題として小学校出前講座一覧掲載に至ったことは成果と捉えている。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	①. 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	各企画の参加者アンケートから、資源循環や地産地消への理解が深まったことがうかがえる。企画への参加者から回収ポイントや菜の花ボランティアにつながったことを事業の大きな成果と捉えている。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された ②. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	チーム会議等は無料の施設を使用し、経費の節減に努めた。 講師交通費は謝礼金に含みお願いすることができた。 主なスタッフの交通費が徒歩のため掛からないことが多かった。
	実施過程で問題は発生しましたか	①. 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	事業を順調に遂行できた。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	①. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	市政だよりや町内回覧、麻生区ホームページで広報することにより、参加者・賛同者が増えた。公共機関での廃食油回収を継続し、各種イベント出展など、協働により活動を広げることができた。企画課より環境局を通じ、小学校出前講座一覧への掲載が可能となり、さらに事業の広がりが期待できる。



平成29年度麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>①. 十分に行った</li> <li>2. まあまあ行った</li> <li>3. あまり行わなかった</li> <li>4. 行わなかった</li> </ul>	年間計画に基づき協議を行い、さらに必要に応じて協議を申し入れ、十分に認識を共有して活動を進めることができた。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>①. 対等な関係になっていた</li> <li>2. まあまあ対等な関係になっていた</li> <li>3. あまり対等な関係でなかった</li> <li>4. 明らかに対等な関係でなかった</li> </ul>	課題解決のため、一致して事業を推進できた。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>①. 明確かつ適切に設定できた</li> <li>2. 明確だったが、適切でなかった</li> <li>3. 不明確だった</li> </ul>	適宜協議を行い、十分に調整して進めた。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>①. 十分確保できた</li> <li>2. まあまあ確保できた</li> <li>3. あまり確保できなかった</li> <li>4. 確保できなかった</li> </ul>	町内回覧を通じ事業に関する進捗状況の報告を継続して行った。廃食油回収協力者やイベント参加者などの協力者にはニュースレターを年間4回発行し、事業の報告を行った。2月開催のフォーラムでは年間活動報告を行った。
今後の課題	<p>菜の花プロジェクトによる地域資源循環を親子企画やイベント参加を通して、多くの区民に知らせることができた。特に親子対象の調理企画は人気が高かったが、協働事業による賃借料や広報の支援が終了すると継続が難しくなる。今年度、参加者には食材材料費のみの負担をお願いしたが、市民事業としての収入は限られており、参加費は相当額の値上げをせざるを得ない状況となる。また市政だよりなど、多くの区民の目に触れる機会は貴重であり、参加希望者が多かったが、今後の企画展開には課題がある。</p> <p>小学校教育プログラムについては準備を整えることはできたが、今後の出前授業の申し込みは小学校の裁量であり、出前授業一覧掲載は評価できるが、今後は小学校ごとに申し入れを行いながら活用につなげる必要がある。</p>		

平成30年3月5日

## 事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	ゆりっぴい広場
-----	---------

### 1 事業結果

事業名	地域の茶の間・ゆりっぴい広場で多世代交流	
実施時期	平成29年5月20日 ～ 平成30年2月17日	
事業費	予算額	244,404円
	決算額	222,663円
実施結果	<p>（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など）</p> <p>&lt;食・イベント開催&gt;</p> <p>場所：百合丘いこいの家</p> <p>① 5月20日(土) 初鰹カレー・ゴム印作り 20名</p> <p>② 6月17日(土) マーボーカレー・ゴム印作り 26名（内、子ども2名）</p> <p>③ 7月15日(土) ハンバーグ&amp;ラタトゥイユ・一閑張・ゴム印作り 30名（内、子ども6名）</p> <p>④ 9月2日(土) すいとんカレー・防災出前講座 21名</p> <p>⑤ 10月21日(土) おでん</p> <p>*百合丘いこいの家がある施設で開催される北リハフェスタに広報の為参加</p> <p>⑥ 11月18日(土) オータムピラフ&amp;カレースープ・オカリナ演奏 リース作り23名（内、子ども1名）</p> <p>⑦ 12月16日(土) ハーブチキンカレー・色紙書初め 19名(内、子ども1名)</p> <p>⑧ 1月20日(土) 新春カレー・琴の演奏・タオルで作るワンちゃん 26名(内、子ども2名)</p> <p>⑨ 2月17日(土) 福カレー・コンテンポラリーダンス 24名</p>	

<p>事業総括 (自己評価)</p>	<p>(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など)</p> <p>地域コミュニティが希薄になった今、防災や地域福祉のために地域のセイフティーネットとして平時から住民の互助の関係を作る目的で、まずは茶の間のような食を媒体とした空間を作り、そこで出会った人たちが交流することで信頼関係を築けるような様々な仕掛けを試みた。</p> <p>場所の確保のための交渉、材料を仕入れるためのルート、季節感をどのように取り込むか、実際に動くことで、いろいろな関係ができてきた。</p> <p>食材は地域の八百屋さんを中心に仕入れた。そこは地域の人たちが毎日買い物に来るところであり、生産者との関係も持つ地域密着型のお店だった。お得意さんとなった私たちの協働事業に好意的で、毎回相談しながら食材を購入するうち、地域の生産者の情報や事業の広報にも協力してくれるようになった。</p> <p>また参加者は、最初は口コミで集まって来た方が多かったが、次第にその方々が別の知り合いに声をかけ、果ては麻生区外から来てくださる方もあった。子どもたちについては、会場の施設になじみがないこともあり、なかなか広がっていかなかった。</p> <p>参加者がお互いの距離をちぢめるためには、食事をしたり、楽しい雰囲気を感じて、茶の間にいるような安心感を持ってもらう必要があるので、会場の雰囲気づくりと食べ物の季節感には知恵を絞って配慮した。</p> <p>また、食事のあとの団欒をイメージして、色々な楽しみを計画した。</p> <p>その企画のために、琴の演奏家やオカリナの演奏グループ、絵や生け花の指導者等、地域の様々な人材との関係も生まれた。その一つに、年末の企画に「色紙に書初め」と題して、書道の先生にご指導いただき、半紙ではなく色紙に毛筆で好きな言葉を書いてもらった。毛筆が日常生活から縁遠くなり、馴染みのないことに高齢の参加者はなかなか手を付けなかったが、その時参加していた小学生のトライする姿に励まされ、次々と何十年ぶりかの書道にチャレンジした。中には、最後まで抵抗していた高齢者もあった。しかし、参加者が次々と挑戦して、味のある文字に朱の刻印を押して満足できる作品を手に見ているのを見て、また、その人たちの後押しもあって、さまざま条件が悪い中でも挑戦してくれたことは大きな成果だった。何より、その本人が大変満足し、周りに感謝しているのを見て、その場がお互いを肯定的にとらえる雰囲気になっていたことは思いがけない効果だった。</p> <p>このような満足感が、常連として毎回楽しみにしてくれる方を定着させ、更に新しい方に声をかける循環を作ってくれた。</p> <p>また、顔見知りになった人とは、別の場面で出会っても今までとは違う、より親しい間柄になったことをうかがわせる場面があちこちに見られた。例えば、今までは挨拶を交わすことも少なかったが、当たり前のように言葉を交わし、場合によっては道すがら家族のことなど話すまでになった。</p> <p>こうして同じ場を共有し交流を重ねることで、何気なく手伝いを申し出てくれるなど、参加者とスタッフはお互いに肯定的な関係になれたが、参加者同士の信頼関係がここまでになるにはもう少し時間を必要とすると思われる。</p>
------------------------	--

## 2 決算内訳

### (1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
委託料	244,404	
合計	244,404	

### (2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	153,000	管理栄養士謝礼、イベント講師謝礼
旅費・交通費	43,380	スタッフ5名施設までのバス代等
消耗品費	17,402	テーブルマット等イベント用品
印刷製本費	3,841	コピー代他
通信運搬費	0	
使用料・ 賃借料	0	
保険料	5,040	全国社会福祉協議会ボランティア活動用保険
その他	0	
合計	222,663	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

平成29年度麻生区市民提案型協働事項 振り返り表

団体名 ( ゆりっぴい広場 )
事業名 ( 地域の茶の間・ゆりっぴい広場で多世代交流 )

視点	項目	判断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1.十分達成できた ②..ほぼ達成できた 3.あまり達成できなかった 4.達成できなかった	交流を通じて、参加者とスタッフ、スタッフ同士の間には場を共にすることでお互いを認める共生関係が出来た。地域の課題は、この共生関係を網の目のように広げていくことでやっとその緒に就く。本当の目的の達成までは、まだほど遠い。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	①十分満足していた 2..ほぼ満足していた 3.あまり満足していなかった 4.満足していなかった	準備する食や雰囲気演出、だんらんを過ごす時間の使い方など、スタッフとしてはできる限りの知恵を絞った。それに対して、参加者は毎回趣向の違う内容に満足してくれていたと思う。
	事業の経費は適正でしたか	①.大きな過不足なく適正に執行された 2.見込みよりはるかに少なかった 3.見込みよりはるかに多かった	必要な経費は最低限になるよう努めた。
	実施過程で問題は発生しましたか	①.問題は発生しなかった 2.問題が発生したが適切に解決できた 3.問題が発生し、解決できなかった	施設の特性や専門機関の指導で、問題はあらかじめ示されたので回避できた。しかし、それによって食材や広報に制約が生じた。食材の制約は参加者の健康に影響することなどで、様々な調理方法など工夫することでスキルアップに貢献したが、広報の制約は事業拡大に消極的にならざるを得なかった。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果を上げることができましたか	①十分効果があった 2.まあまあ効果があった 3.あまり効果がなかった 4.効果がなかった	公的な施設を利用することで、また保健所の指導により、衛生面やアレルギー対策等、事業に対する地域の信頼を得ることが出来た。これは、単独で実施するより効果を上げることが出来たと評価できる。可能ならばもっと課題を共有し、それについて対話し、事業目的を共有できればもっとよかった。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	1.十分に行った ②.まあまあ行った 3.あまり行わなかった 4.行わなかった	毎回事業実施後に、事業内容や会場や参加者の様子など、詳細を報告していたが、それに対するフィードバックが得られなかった。課題解決のための場づくりとして、具体的に実施していることについての対話は十分だったとは言えず、事業目的の共有化のためには、もっと立場の違いをお互いに確認しつつ、積極的な協議を行えたらよかった。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	1.対等な関係になっていた ②.まあまあ対等な関係になっていた 3.あまり対等な関係でなかった 4.明らかに対等な関係でなかった	協定書の上では、行政と団体の関係は対等であったが、立場の違いはあった。協働事業といっても、あくまで行政の手法ありきの印象を持った。書類上重視されていることが実際にはどのような効果があるのか、事業として重要視することは何か、多少の認識の違いはあったと思う。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	1.明確かつ適切に設定できた ②.明確だったが、適切でなかった 3.不明確だった	役割や責任の範囲についての認識に多少の違いがあると感じた。もっとすり合わせをする必要があった。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	①十分確保できた 2.まあまあ確保できた 3.あまり確保できなかった 4.確保できなかった	毎回、実施内容については詳細に報告していた。また、問い合わせがあった時は、迅速に真摯に対応したつもりである。団体の認識として、公開性・透明性は確保されていたと思う。
今後の課題	多世代交流に取り組んだが、その間、NPOや民間で3カ所もの子どもの食に取り組む事業が始まった。これは、社会的に子どもの問題が深刻になってきていることの現れだとも言える。これからの社会を支える子どもたちを地域で安全に健全に育てる土壌を作らなくては、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が安心して暮らせる地域にはなってはいかない。そのためにも、高齢者と同じく母親の世代の気持ちにも寄り添い、実家に預けるように安心して子どもを出せる場所、ともすれば批判しがちな高齢者や親世代等の世代間の関係が、ともに見守り見守られる関係になることで、子ども同士でも安心して食事ができる、そんな場のある地域になって欲しい。そのための多世代交流であり、地域の茶の間の意味があると思う。このような新たな課題に対応するためには現在の場所では困難がある。今後このような多世代交流にふさわしい新たな場所を開拓し拡充して、地域の共生関係を構築する必要がある。これは、あらゆる組織が協働して取り組むべき課題である。		